

令和 4年 9月

上村篤史 学位論文審査要旨

主査 藤井進也 教授
副主査 植木賢 教授
同 永島英樹 教授

主論文

A method combining the use of a mobile application and a dedicated pelvic positioner for acetabular cup insertion

(寛骨臼カップ設置における携帯端末用アプリケーションと専用骨盤固定器の併用法)

(著者：上村篤史、榎田誠、榎田信平、永島英樹)

令和4年 Journal of Orthopaedic Surgery and Research 17巻 251

参考論文

1. 人工股関節全置換術における術前イメージを用いた骨盤傾斜の矯正

(著者：上村篤史、岸本勇二、岡野徹)

平成25年 中部日本整形外科学会雑誌 56巻 963頁～964頁

2. セメントレスカップ設置後の寛骨臼外壁に行ったペースト状骨移植の短期成績

(著者：榎田信平、岸本勇二、上村篤史、永島英樹、岡野徹)

平成26年 中国・四国整形外科学会雑誌 26巻 241頁～245頁

3. Spinal cord infarction at the level of ossification of the posterior longitudinal ligament

(後縦靭帯骨化症の高位で発症した脊髄梗塞の1例)

(著者：谷田敦、上村篤史、谷島伸二、三原徳満、武田知加子、永島英樹)

平成28年 Spinal Cord Series and Cases 2巻 16032

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、THA術後合併症の1つである脱臼を回避する目的で開発した携帯端末用アプリケーションと専用骨盤固定器を使用した場合の寛骨臼カップ設置精度を検証したものである。従来法と比べて高い設置精度が得られ、脱臼を回避できるとされるLewinnekの安全域を全例で達成していたことからその有効性が証明された。また、このシステムよりも高価で煩雑な手技を必要とするナビゲーション・システムの諸家の報告と比較しても遜色ない精度であった。本論文の内容は、THA術後合併症を回避するための安価なシステムを開発してその有効性を示したもので、明らかに学術水準を高めたものと認める。